

# New Caledonia

Design ; Maya

# 天国に一番近い島 ニューカレドニア

Photo & Text ; Takaji Ochi  
Model ; Nikki Yamaguchi  
Special Thanks ; Alize

小説「天国に一番近い島」は、もう40年も前の話。観光地化される前、船でやってきた主人公にとって、初めて見るニューカレドニアの印象は、「いきなり赤土の山が迫り、暑苦しうに繁った樹々で覆われて、その樹はみずみずしい青さではなく、暑い太陽にさらされて、乾ききった生氣のない青さだった。どの山の土も赤く、どの樹も同じような樹ばかりだ」。そして、「この島、こんな島なんですか」が第一声。40年後、飛行機でやってきた僕にとっては、突き抜けるような青い空と乾燥していて快適な気温。青い海。明るく整ったヌメアの町並み。火炎樹や、色とりどりの花々が咲き誇る南国の楽園の入り口のような場所だった。今回は「天国に一番近い島」、ニューカレドニアの4ダイビングディステーションを巡る旅に出た。

イル・デ・ナンでも人気の景勝地、ピッシンヌ・ナチュレル

## New Caledonia

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.alizedive.com/> 関連情報HPへ

# 01, Hienghene

# ヤンゲン

複雑な地形が人気の景勝地



針山のような山並みが続くヤンゲン。ニューカレドニアの中でも異彩を放つ

New Caledonia 01 Hienghene

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

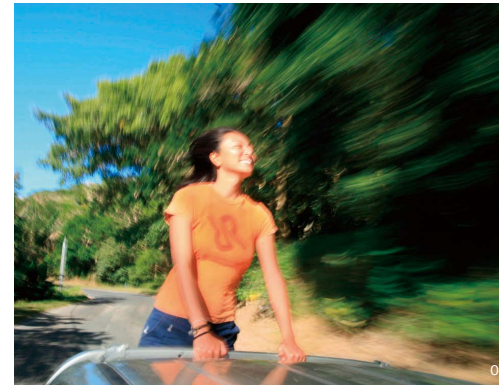
天国に一番近い島 ニューカレドニア

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.babou-plongee.com> 関連情報HPへ



針山の中に口を開ける鐘乳洞は、演劇やコンサートなどが上演されることもある



01,車の荷台に乗って、風を感じたくなる  
02,目を閉じて、耳を澄まして、鳥の鳴き声を聞く

## キングコングが出現しそうな景観に魅かれる

ニューカレドニアの空港に降り立って最初に向かったのは、ニューカレドニアのメインの島、グランドテール島の北東部に位置するヤンゲン、ポアンディエという地方の小さな町。あまり日本人には馴染みの無いディステーションだが、ヌメアやイルデバンとは違う海中景観の広がるダイビングが楽しめるという話を聞いていた。

アリエダイビングセンターの小川マサシさんが空港まで車で出迎えてくれて、まずヤンゲンを目指す。車で5時間の移動。窓を開けて、車内の空気を入れ替える。嫌な湿気をとまわらない、乾燥した空気が心地よく顔に当たり、そして身体に絡みつく。それだけで幸せな気分になれる。真っ青な空には、ちぎれ雲が点々浮かんでいる。

ヤンゲンに近づくと、それまでのなだらかな丘陵状の地形が一転して、まるで針山のような刺々しい岩山が姿を見せた。「ニューカレドニアでも人気の景勝地なんです」とマサシさんが説明してくれた。

ニューカレドニアの500Pフラン紙幣にも描かれている、この土地の異様な風景は、石灰岩が隆起してできたという。ここでのダイビングは、そんな岩山に挟まれる

ようにあるキャンプ場の中に店舗を構えるバブー・コテ・オセアン(バブレエンのダイビングサービスの意味)から、小さなボートに乗って、沖にあるバリアリーのポイントを目指す。

ガイドはチェリー・バブレエさん。まるでコメディアンのような、陽気でやさしいおじさん。お世話になった2日間、ずっと同じ海水パンツ1枚をはいている姿しか見かけなかった。キャラはまったく違うけど、その点は小島よしおみたい。

彼が到着早々連れて行ってくれたのは、ダイビングではなく、近くを流れる川へのエコツアー。まずは、河口に鎮座する、ロッシュド・ブル(チキン・ロック)。ある方向から見ると、雄鶏の姿に見える岩山だ。そして河口をさかのぼり、その地域に繁殖している4種類のマングローブの説明を聞いたり、目を閉じて、鳥の鳴き声などを聞いて過ごす。そのプチエコツアー中も彼は海パン1枚。



## 複雑な地形が描く、光と陰の芸術



01 陽気なチェリーさんは、日記ちゃんとマサシ君を  
従えて、中央で記念撮影に収まる  
02、ケープやスィムスルーなどの地形が楽しい  
03、いつも海パン一丁のチェリーさん



翌日からのダイビングで向かったのは、バリアリーフ上、エングチャネルにあるカテドラル。点在するリーフトップには元気なハードコーラルが繁殖し、隆起したサンゴ礁のリーフの間々に天然のケープやキャニオンが無数にあって、トップのサンゴを楽しんだ後は、迷路のような地形を楽しむ。

ところどころに、深紅の巨大ウミウチワが棲息して、長い歳月をかけて成長した礁の間から差し込む、美しい太陽光とともに、暗いケープやキャニオンに彩りを添えている。

チェリーさんは、そんな迷路の中を楽しそうに移動していく。そして「ここ、このソフトコーラルの壁を見てごらん、美しくテレビアーンだろ〜」と大きなゼスチャーとともに、目をキラキラ輝かせる。

礁の亀裂から差し込む光のシャワーは、自然が作り出す光の芸術であったり、我々ダイバーを照らし出すステージのスポットライトであったりと、見ているだけで飽きることはない。時折、ツバメウオやバラクーダなどの群れが目の前を移動していく。

\*

ダイビングを終了して、ボートに戻ると、まずチェリーさんがするのは全てのウェットスーツを脱いで、海パン一枚になること。水温は27度くらい。僕らからすると上がってきてその姿でいるのは、結構勇気がある。そんなに海パン姿が好きなのかと思ったけど、これには訳があって、ボート上での僕のカメラ機材のクッション代わりに、自からのウェットを敷いてくれていたのだ。しかも、毎ダイブ。

敷き終わると、「さあ、これで大丈夫だね」って感じで笑顔でウィンクする。まあ、単純に海パン一枚でいるのが居心地がいいのだろうとは思うけど、こんな身体を張った気遣いをしてくれるガイドは、今まで日本人でも出会ったことがない。

格好は小島よしおだけど、「カメラ機材が壊れても、でもそんなの関係ね〜!」とは言わないとても、紳士的でやさしいおじさんガイドだった。



01,リゾートホテルのクルヌエ・ヴィラージュのパンは美味しいと評判だ  
02,カメラを向けると、おどけた表情を見せてくれるチェリーさん  
03,海中でも、突然被り物で皆を笑わせる  
ショーマンシップのチェリーさんに、思わずキッス



## 島情報

ヤンゲンは、ニューカレドニア北部州に位置する。ヌメアから車で 378km。グランドテール島でも、もっとも風光明媚な土地の中の一つでもある。切り立った針山のような奇岩が周囲を取り囲み、まるで天然の要塞のようにも見える。その中には巨大な洞窟があったりと、ダイビングだけでなく、陸の景観も楽しめる。



### Koulnoue Village クルヌエ・ヴィラージュ

以前はクラブメッドだったが、現在はニューカレドニアのグループホテルが運営している。ビーチに面した広い敷地内には、ゴルフ場、テニスコート、プール、バターゴルフなどがある。客室はバンガロー 50 室。カーズ 9 棟 (8 名まで収容可能)。食事は 3 食ともブッフェ形式。

<http://www.koulnoue.grands-hotels.cc>



### Babou Cote Ocean バブー・コテ・オセアン

ヤンゲンにある唯一のダイビングサービス。ボート2隻を所有し、ポイント数は 15 箇所。クルヌエ・ヴィラージュから車で 5 分ほどのキャンプグラウンドにサービスがある。アットホームで、オーナーガイドのチェリーさんは、気さくで、陽気で面白い。

<http://www.babou-plongee.com>

田舎な雰囲気と、人々の優しさが好印象だった

# ヤンゲン



ニューカレドニア屈指のハードコーラルを堪能する

# 02. Poindimie

# ポアンデイエ

「アルシオンの庭」と名づけられたポイントに点在する見事なサンゴの隠れ根に感動

New Caledonia 02 Poindimie

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

天国に一番近い島 ニューカレドニア

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.tiefi-diving.com> 関連情報HPへ



## ポアンディミエ

ナンヨウスギの小さな島がトレードマークの田舎町



01



02



03

- 01, 牧場の有刺鉄線を乗り越えて、ボロボロになったジープと記念撮影。なんかっこい
- 02, ダイビングに使用されるのは、大型のディングー、屋根無し(笑)
- 03, 町はずれにあった、石造りの古い教会

ヤンゲンでのダイビングを終了して、グランドテール島東海岸に沿って南下し、次に向かったのが、ポアンディミエという町。ちなみに、「天国に一番近い島」の中では「ボンジミエ」と表記されている。ヤンゲンのように際立った景勝地があるわけではなく、いたってあっさりした風景の広がる田舎町だ。唯一目を引くのが、町の沖にボツンとあるティバラマ島。小さな島には、ナンヨウスギ、ヤシの木、火炎樹などが繁殖していて、目を引く。

ここでは、ティエティダイビングでお世話になる。ティエティとは、この周辺に住む部族の名前だそうだ。

オーナーガイドのマルタンさんは、背のすらっと高い俳優のようなクールガイ……、と思いきや、気分が良いのか、車で港までの移動中、CDのボリュームを上げて、お気に入りのフランス語の歌を大声で楽しそうに歌い始めた。車にはゲストも乗っているのだけど、まったく気にしていない様子。助手席に乗っていた僕に歌いながらウインクして見せた。(また、この人もウインクだよ……)。外見からクールと判断してしまっただが、かなり陽気な人物らしい。

彼は自らコンパクトデジカメを使って、生物を撮影している。だからなのか、マクロ生物などにも精通していて、日本人好みのダイビングをしてくれる。特にウミウシなどが好きみたいで、ショップの店舗内にはウミウシをはじめとする、自ら撮影した海中写真を壁一面に張り巡らせている。

そのおかげで、ダイビング前に「この生物はどこで見れるの?」とか、「これ見たいな〜」というような、ちょっとした質問やリクエストができるのが嬉しかった。



## 色彩の種類の豊かなサンゴの庭園



タカサコの群れが、美しいサンゴの群生の上をゆっくりと移動していく。アルシオン庭

ポアンディミエのダイブサイトは90くらいある。その全てをマルタンさんが一人で開拓してきたのだという。この海のパイオニアでもあるのだ。港からはディンギーに乗船してポイントを目指す。ポイントの多くが、ヤンゲン同様バリアリーフに点在している。

屋根の無いディンギーでポイントを目指す。波があると跳ねるので、中央にあるバーを持ってボート上で立ち上がった方が楽な場合もある。(なんだか、上陸作戦に向かう特殊部隊みたい……。)と個人的にはその状況を楽しんでいただけ、体力が無い人にはちょっと辛いかもしれない。

\*

肝心の海の話。僕がここで潜って一番驚いたことは、「ニューカレドニアでもかなりハードコーラルが美しい」とマサンさんから聞いてはいたのだけど、エントリーと同時に「これほどとは!」と感嘆してしまったほどの美しさだった。

特にラ・ファイユドゥ・ベイは、浅い白砂の海底に、色彩と種類の豊かなサンゴの庭園が広がる超癒し系のポイント。

そのサンゴの間には、フィリピンやタイなどで見られるのとは明らかに体色が違うローランドダムゼルや、青と黄色のボディが美しいポリネシアンデムワーゼルなどの変

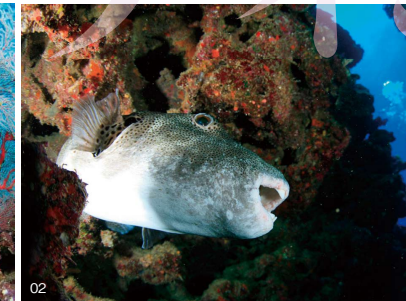
わったスズメダイがいたり、ニューカレドニアの固有種、ブラックバタフライフィッシュなどの魚たちが泳ぎ回る。

世界中でさまざまなサンゴポイントに潜ってきたが、久しぶりに僕好みのサンゴポイントに新たにめぐり合えたことは、大きな収穫だった。

\*

透明度の高いバリアリーフのポイントから一転、陸地から近いティバラマ島の周辺に潜る。「結構いろんな種類のウミウシやハナヒゲウツボが見れるよ!」ということで潜ったのだが、ここでもサンゴの驚異的な成長降りに目を見張った。これで透明度さえもっと良ければすごいポイントだな。期待していなかっただけに感動が大きかった。

日本人ダイバーにとって、ヤンゲン、ポアンディミエは、まだまったくと言っていいほど、紹介されていない未開の海だ。これはフランス語という言葉の問題が大きな理由の一つでもあるが、それさえクリアできれば、また改めて、面白いガイドたちに案内されて、彼らが開拓してきたこの海をじっくりと潜ってみたいと思う。……何せ今回の短い滞在では、彼らが魅了されて、この地に住み着く決心をした、美しい海のほんの一握りしか見せてもらっていないのだから。



01、シーファンも大きくなって元気に成長している

02、スイムスルーの狭い抜け道の中で、巨大なケショウフグに遭遇



ダイビングの途中で上陸した無人島のビーチでダッシュ!



左&右、ちょっとやっていいかどうか気が引けたけど、沢山あるサンゴで一芸大会



## 島情報

ニューカレドニア北部州。グランドテール島北東部にある町の中では、病院、学校などもあり、一番大きな町。ヤンゲンよりも南に位置する。沖にあるナンヨウスギの林立するティバラ島がこの町のシンボリック的存在。ダイビングポイントは90を数える。

### Le Tapoundari

ル・タプンダリ

ポアンディミエの町の中心を流れる川の河口に位置する、プチホテル。部屋数12、エアコン、TV、シャワー、冷蔵庫、キッチンが完備されていて、長期滞在も可能。併設のレストランも観光客や地元の人に人気。

### Tieti Diving

ティエティ・ダイビング

ポアンディミエ唯一のダイビングサービス。オーナーガイドのマルタンさんは、コンデジで自ら撮影した、水中写真を店舗内に飾っている。マクロ生物などにも興味があり、日本人好みのガイドングをしてくれる。ゾディアック3隻を所有し、自らが開拓したダイビングポイントは90に及ぶ。今年3月に、新しく建設中のリゾートに移転する予定。

<http://www.tieti-diving.com>

# ポアンディミエ

90ものポイント点在するサンゴの楽園

New Caledonia 02 Poindimie

天国に一番近い島 ニューカレドニア

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.tieti-diving.com>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



多くの観光客が訪れる  
ニューカレドニア随一の人気観光島

# 03. Ile des Pins **イル・デ・パン**

タイドプールというより、本物のプールのような透明度を誇る水と、ナンヨウスギの緑のコントラストが美しい

**New Caledonia 03 Ile des Pins**

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

天国に一番近い島 ニューカレドニア

**Web-lue 2008. Spring**

 **Information Link** 関連情報HPへ  
<http://www.alizedive.com/kunie/>



ナイトダイビングで遭遇予定だった、アカウミガメが、真正面からやってきた



## 明るくてカラフルな海中景観が広がる イル・デ・パンの海

ヤンゲン、ポアンデミエという北部のダイビングエリアを潜り終えて、また陸路をヌメアへと戻り、次に向かったのは、グランドテール島南部に位置する、イル・デ・パン。ダイビングだけでなく、風光明媚な島の景観から、多くの観光客が訪れる、ニューカレドニア唯一の人気観光島。

イル・デ・パンとは、フランス語で「松の島」の意味。島全体が、すらっとスリムに細長く伸びるシルエットが特徴的なナンヨウスギが林立していることから、この名前が付けられた。

それは、メインとなるイル・デ・パン島だけでなく、その周囲に点在する小さな島々にも共通して言えるために、ダイビングポイントへ向かう行き帰りのボート上からの風景も、他ではなかなか見ることのない、ナンヨウスギが林立する不思議で美しい光景を楽しむことができる。

\*

「ここでは、まずバラクーダの群れと、ナイトダイビングで大きなアカウミガメを撮影してもらいたと思います」と以前、イル・デ・パンでガイドしていた経験のあるマサシさんに促されて最初に潜ったのは、パス・ドウ・ギエというポイント。白い砂地が美しいチャネルのポイントで、太陽の光が差し込むと、砂の反射がまぶしいくらいだ。

エントリーして、海中でカメラハウジングの調整をしていると、流れにのって向こうからゆっくり泳いできたのは、ナイトで撮影予定だった巨大なアカウミガメ。「あれ？あれ？ナイトで見ると見えないの？」と思っている内に、目の前まで来てしまったので、撮影。エキジット後に、「ナイトする必要がなくなりましたね」とマサシさんから笑われた。

しかし、バラクーダの群れの方は普段より小さくて、ちょっとがっかり。群れがばらけていたのと、時期が早すぎたせいらしい。その後、このポイントを流していくと、サンゴ礁地帯に出るのだけど、そこに付着するオレンジ色のウミウチワの群生は、それほど巨大な印象は無いのだけど、見事な色彩を放っていた。

01、他ではなかなか見ることのない、美しいハナダイ系は、ペインテッドアンティラス  
02、ダイビングの途中で、バンドウイルカにも遭遇



このイル・デ・パンでのダイビングで、僕がもっとも興味を持ったのは、淡水の鍾乳洞を潜るケーブダイビング。その鍾乳洞は、島のジャングルの奥深くにひっそりと口を開けている。エントリーポイントまでは、急で真っ暗なスロープをタンクを背負ったまま、降りていく。冒険心を掻き立てる探検ダイビング。

下から全容を見渡すと、鍾乳石の柱が天井から床までまっすぐに何本も伸びていて、まるでラビリンスに迷い込んだような、不思議な雰囲気。ここから淡水の中へとエントリーして、はたして無事に戻って来ることができるのかと思えるワクワクした気持ちが、なんとも言えない。

淡水の水温は22度。寒さが身にしみるかと思ったのだけど、水に沈んだ鍾乳洞の神秘的な雰囲気に魅了されて、あまり寒さも恐怖心も感じることはなかった。

\*

ダイビングをしない日には、島を散策。ピッシンヌナチュレルと呼ばれると呼ばれる、ナンヨウスギに囲まれた、美しい海水をたたえるタイドプールや、山の上からの島々にナンヨウスギが林立する様を眺めたりと、他ではなかなか見ることのできない、この島特有の景観美を楽しんだ。

# イル・デ・パン

森の奥深くに口を開く、迷宮のラビリンス・グロット・ドゥ・ラ・トラワジエム



- 01, エントリー口は、急で真っ暗なスロープを降りきった先にある
- 02, 一度ダイバーが入ると、あっという間に水がよどんでしまう
- 03, エントリーポイントまでは、ジャングルの中をタンクを背負って移動する
- 04, ラビリンスのような、鍾乳洞内部

メインの島の山頂から、周囲の島々を眺める。同じようにナンヨウスギが林立する風景が美しい



01,プロペラ機で、ヌメアからイル・デ・バンへ向かう  
02,アフターダイブは、ホテル・コジューのプールサイドでくつろぐ  
03,人懐っこい、島の子供たちと記念撮影



## 島情報

ヌメアから南東 80km に位置するイル・デ・バンは、メラネシア人からは「クニエ」と呼ばれる。幅 14km、長さ 18km の島内に、ナンヨウスギが繁殖し、世界で最も美しいとも言われるビーチが点在しているなど、美しい自然が残る、ニューカレドニア随一の観光島。

### Hotel Kodjeu

ホテル・コジュー

ヤシの木立の中にあり、敷地内には、ビーチフロントバンガローと、ガーデンバンガローが間隔を開けて建つ。南国情緒豊かな、落ち着いた雰囲気のリゾート。レストランでは、イル・デ・バン産のエスカルゴやイセエビ、ステーキなどの食事が楽しめる。ダイビングスポットからも近く、クニエ・スクーバセンターが隣接。

### Kunie Scuba Center

クニエ・スクーバセンター

イル・デ・バン唯一のダイビングサービス。ホテルコジューに隣接していて、ボートは目の前のビーチから出発する。日本人スタッフはいないが、フレンドリーなスタッフが対応してくれる。21 のダイビングスポットを有する、ニューカレドニアでも老舗のダイビングサービス

<http://www.alizedive.com/kunie/>

世界で最も美しいと言われるビーチが点在する、  
ナンヨウスギの島

瀟洒で美しい町並みと、豊かな海中世界

# ヌメア 04, Noumea



ボンツーンというポイントが目の前にある、メートル島の栈橋

**New Caledonia 04 Noumea**

天国に一番近い島 ニューカレドニア

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.alizedive.com/> 関連情報HPへ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



## 天国に一番近い島の玄関口、ヌメアでのダイビング



餌付けで人馴れした、ホワイトレズサージエントの図々しさが可笑しい



01,アリエの新艇、ピクティリス号の上で、体験ダイビングの説明  
02,ローランスタムゼルの南太平洋バージョンの、体色の美しさに感激



……そして最後に潜ったのが、ニューカレドニアの玄関口であり、首都であるヌメア。ニューカレドニア唯一の都会と行っても良いこの町は、ココティエ広場を中心に、坂道を利用して設計された、瀟洒で美しい町並みがとても印象的だ。日本からの観光客の姿も目に付く。小説のタイトルの印象が、強く残っているに違いない。僕も実際のところニューカレドニア=「天国に一番近い島」と真っ先に思いつくくらい。小説の影響は大きい。作者が、ニューカレドニアの観光化を意図して、一般ウケしそうなタイトルを考え付いたのではないかと勘繰りを入れなくなるほどだ。

ダイビングもそうした観光客を対象とした体験ダイビングや、あまりハードに潜ることの無い、ブランクダイバーに対する手軽なダイビングが楽しめるポイントも多い。

その代表格のポイントが、リゾートのある、メートル島の目の前に設置されたボンツーンボートから潜るポイント。体験ダイビングでも利用されるからと言って、たいしたポイントではないと思ってもらっては困る。

ダイビングボートが出航する港から、日本で作ったアリエの大型新艇、全長15.5mのピクティリスに乗船して、ポイントに向かう。トップデッキと操舵室以外は全て、ダ

イビングを目的に作られている。  
ダイビングするメインの根は、水深5mと浅いのだが、その根には、あふれんばかりのニセクロホシフエダイが群れて、根を黄色く覆いつくしている。  
また、ホワイトレズサージエントというオヤビツチャ系の魚たちが群れる姿も圧巻だ。餌付け慣れしてるからでもあるのだけど、その接近距離の近さには、ちょっとびっくりする。それに、根はマクロ生物も多く、ラベンダートーバックや、ポリネシアンデムワゼル、アサドズメダイなどのスズメダイ系をのんびりと観察したり、撮影したりするにも持ってこいのポイントだ。

\*

そして、一番驚いたのは、こんなに都市に近く、ボートが頻繁に行きかう海域で、ジュゴンを目撃したこと。ボート上で「ジュゴン! ジュゴン!」と興奮する僕に「この辺では、よく見ますよ」とさりとした返事を返すマサンさん。海洋哺乳類好きの僕としては、いつかニューカレドニアのジュゴンの撮影にもチャレンジしてみたいと、密かに、新たな目標を立てていた。

このリゾート島を挟んで、反対側には、ラグーン内でも人気のポイント、テババがある。ここでは、数匹のアオウミガメ、ギンガメアジの群れ、バラクーダの群れなどが堪能できる。

しかし、なんと言っても、僕がダイビングを一番堪能できたのは、バス・ドゥ・ブーラリアウト。マンタ、そしてブラックマンタに高確率で出会えることで、ニューカレドニアでも有名なポイントだ。

チャンネルの浅いフラットなリーフを流しながら、マンタの出現を待つんだけど、「今の時期は、マンタシーズンではないので、マンタは期待できないかもしれないですよ、ブラックどころか、普通のマンタも出るかどうか……」というマサシさんの助言を先に受けていた。「まあ、それはしょうがないよ」と最初から諦めていたのが良かったのか、それとも例年よりも低かった水温が幸いしたのか、今回3回このポイントを潜って、3回ともマンタ、ブラックマンタに遭遇した。

期待していなかっただけに感動と興奮も大きかった。やはり大物好きの僕としては、マンタと対峙して、いかにかっこよく撮影するかを考えながら潜るダイビングは、本当に楽しかった。ブラックマンタは、サイズも大きくて、見ごたえもある。普通のマンタに比べて、黒い部分もなんだかつや消しをかけたような肌質がかっこよくて、「これぞ生きたステルス戦闘機」といったちょっとした不気味なカッコよさも二重丸。

本来、マンタのシーズンは、水温の下がる4月～9月頃にかけてだという。群れるときは7～8匹を同時に見れるそうなので、ブラックマンタと普通のマンタが群れるシーンを見たければ、その時期を狙うのがベストだろう。

# ヌメア

不気味なカッコよさに魅かれる、ブラックマンタの勇姿

マンタと交錯する。思わず身を翻して、上昇するマンタの後姿に惚れた

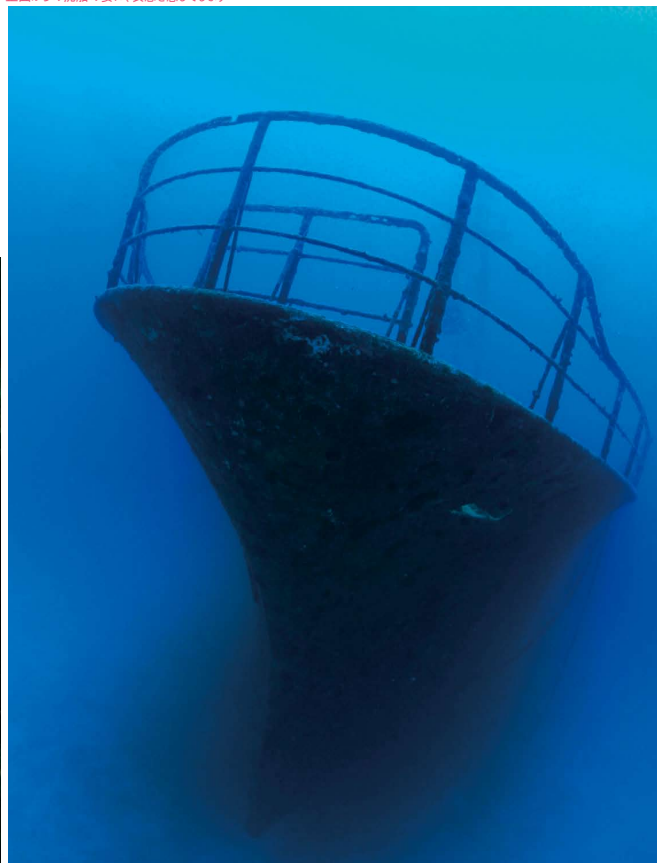


# ヌメア

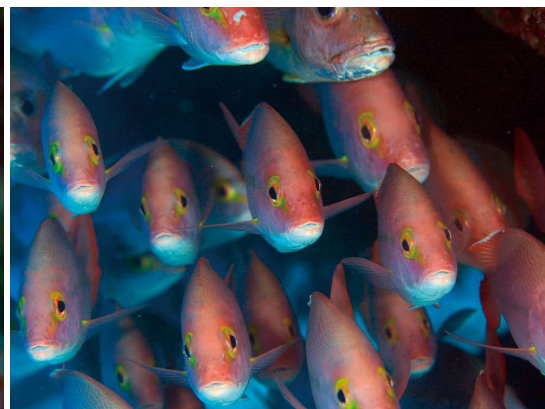
沈んだマグロ漁船の内部を探索できる、トーホ



正面からの沈船の姿に、哀愁を感じてしまう



## バリエーションに富んだ、ダイビングスポットが点在する海



01、派手な体色が人気の固有種、マゼンスタラクトラス  
02、ケラマハナダイなど数種類のハナダイが生息する

このポイントでは、マンタ待ちの間に、フラットなリーフ上に生息するコーラルシーの固有種、マゼンタ・ストレクトラスやペインティッド・アンティアスを撮影。個体数も多いし、チャンネルで、カレントもそこそこあると、流れに向かってホバリングしていることも多いので、撮影しやすかった。

近くには、マグロ漁船の沈むトーホや、ディエポアーズというフランス海軍の軍艦(哨戒艇)の沈船のポイントもあり、マクロ(固有種系)、群れ、大物、レックダイビングと、バリエーションに富んだダイビングが楽しめるのが、ヌメアでのダイビング。そして、アフターダイブは街へ出かけて、フレンチポリネシアの開放的な街の雰囲気を楽しんだり、ショッピングや食事を満喫して過ごせるのが、嬉しい。

\*

小説の中で主人公が見つけた「天国に一番近い島」は実際のところ、今回訪れることのできなかった、ウベアというグランドテール島の北東にある島のことだ。しかし、小説の中で怖い顔をした「土人」と表記されている、ニューカレドニア出会った愛すべき現地の人々の人情も、また「天国に一番近い島」であるための重要なファクターであった。

忙しなく取材を続けた旅だったから、ウベアに行く機会も無かったし、人情に触れることも、あまりなかった。願わくば、次回の訪問では、叶わなかったその二つの事を達成できたらと思っている。



ヌメアの海を堪能する



テババの人懐っこい、アオウミガメ

やはりブラックマンタはカッコいい!

New Caledonia 04 Noumea

天国に一番近い島 ニューカレドニア

Web-lue 2008. Spring

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link <http://www.alizive.com/> 関連情報HPへ



01,ラ・プロムナードの部屋から見える夕日が美しい

02,ダイビング用に、日本で製造された、アリゼの新艇、ピクティリス

03,何かのフェスティバルで、顔にメイクをしている女の子たちに会った



## 島情報

グランドテール南西部にある、ニューカレドニアの首都であり、玄関口。ココティエ広場を中心に広がる美しく活気のある都市。日本から最も近いフレンチポリネシアとして、人気が高い。市内にはスベニアショップや洋服ブランドなどの店が並び、人々が余暇を楽しむビーチ沿いには、様々な種類のレストランが立ち並び。今回紹介した以外の離島へも、ここを基点に移動を行う。

### Le Promenade

#### ラ・プロムナード

2007年にオープンした、アンスパータビーチを一望できるロケーションにある、ベストウエスタン系列のコンドミニアム形式の4つ星リゾートホテル。3棟のビルからなり全160室、エアコン、TV、ADSLインターネット、キッチン、ディッシュウォシャー、洗濯機、乾燥機、シャワー、バスタブ、などが完備され、広いベランダが気持ちよい。

### ALIZE

#### アリゼ

ヌバタパークホテル内に拠点を置く、ニューカレドニアで唯一日本人経営で、日本人スタッフ中心のダイビングサービス。体験から、講習、ファンダイブまでこなす。ガイドとしての経験や知識も豊富。昨年より15.5mの大型新艇ピクティリスを導入し、ダイビングボートは7.8mのアンフィブリアンと合わせて2隻に。より快適にダイビングを楽しめるようになった。

<http://www.alizedive.com/>

# ヌメア

明るく、陽気な南太平洋の港町

## 初めて行ったニューカレドニア。 凄く都会でお洒落な町で驚いた。

……だけど、私の驚きはこんなものではなかった。

ニューカレドニアの北の方、ヤンゲンに到着すると、ブリーフのカーバンシーで陽気に挨拶してくれた人がいた。私は目が点になって驚いた。名前はチェリーさん。本当にチェリーさんって感じのガイドさん(笑)。チェリーさんが案内してくれたヤンゲンの海は、穴が沢山あるポイントで、そこをくぐったり通り抜けたり、なんだか宝探しをしているみたいだった。

チェリーさんがトムソーヤに見えた。

私はトムソーヤの冒険をしてきた。

すっかり自分までトムになりきった私は、ポアンディミエに向かう。

冒険心が溢れすぎて、有刺鉄線に足をひっかけ血だらけ……

いや～驚いた(笑)

自分の不注意さに驚いた。

しかししかし、ポアンディミエの海は、足の痛みなんか忘れてしまうほど綺麗な海。

珊瑚がギッシリ詰まっていて、キラキラ輝いている…あんなときめける海は初めてだった。

透明な海にカラフルな珊瑚。それを太陽が新たな色を造りだしていく乙女な海に驚いた。

## うん、惚れた!

そしてポアンディミエの海について熱く語ってくれたガイドのマルタンさん。どれだけ熱いトークかというと、30分位話して帰るはずが、2時間近くペラペラ喋っていたマルタンに驚き(笑)。あの真っ直ぐな瞳に嘘はなかった。ヒトツの事にあんなに夢中になれるのってカッコいい～。

だんだんニューカレドニアにも慣れてきて、次に向かった先は、イル・デ・バン。

なんと言うか、何も無い(笑)!

無意識の心を丸出しにして自然を味わう事が出来た。一歩歩く事に意味がある。忘れていた大切さを思い出す事が出来た。

森と友達になろうと思い、みんなでグングン森の中へ入っていく。何に触れたのか分からないが、一名(←まさしさん)湿疹出してきましたけど!嫌われてる!森に嫌われてる

(笑)ブツブツに驚きだよ(笑)。

そして、イル・デ・バンの海は大きい。海ってこ～んなに広いんだって。って実感した。思わず、♪海は広いな大きいなあ～♪とみんなにバレない様に歌ってしまった(笑)。船での移動中、イルカと出逢えた驚きは一生忘れない。一瞬にして優しい気持ちになれた。イルカのもっているオーラってなんだか凄い。時間を止めてくれた気がした。

そんな自然を満喫したあとは、ヌメアの都心へ移動。

やっぱり、ヌメアの海といえば、ブラックマンタですよ～。真っ黒なマンタのかっこよさには驚いた。

カッコいい!真っ黒で大きいからイケメンにみえるけど、近くになると、おう弟よ。って言いたくなる位親近感がある不思議な優しさを感じた。

ヌメアのポイントはどこを潜っても、お友達の家にお邪魔したかんじの暖かさを感じた。

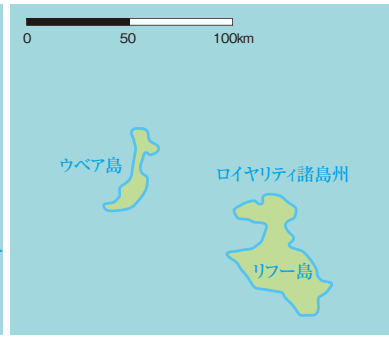
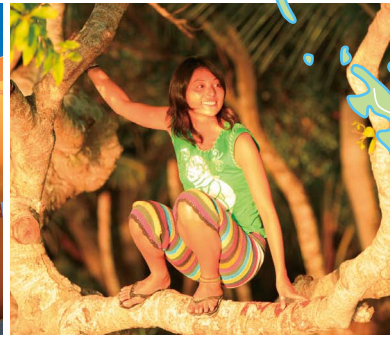
一番驚きなのが、亀が逃げない。めちゃくちゃ近い距離で亀と長いこと遊んだ。亀仙人みたいなヤツだった。

そしてヌメアでも、船の移動中、ジュゴンが見えた! ジュゴンと出逢ったのは初!興奮して、現地の人に「ジュゴンだよジュゴン」と激しく伝えたんだけど、おもいっきりスルーされた(笑)どうやら当たり前の事らしい。

そんなこんなで、ニューカレドニアでは沢山の出逢いや驚きがあった。

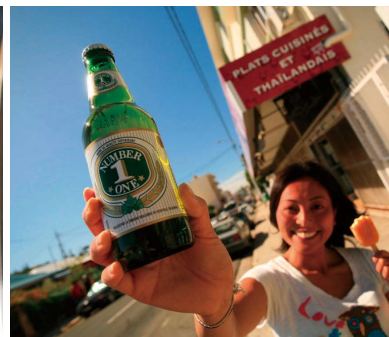
## また絶対行きたい!!

日暮れ直前、森の木々の間を縫って、一線の太陽光が、大木の幹を照らす。まるでスポットライトのようなその光を見つめる



## 島情報

- 国名：フランス領ニューカレドニア
- 公用語：フランス語。ヌメアのホテル、レストランでは、英語も通じる
- 通貨：バンフィックフラン（CFP）
- 時差：日本の+2時間。日本が正午のとき、ニューカレドニアは午後2時
- 入出国：30日以内の観光目的の滞在はビザは不要。パスポート残存期間は現地出国日から3ヶ月必要
- 電圧：220v、50Hz。プラグは丸ピン2つ穴のCタイプ
- アクセス：日本からニューカレドニアの首都ヌメアへは、エア・カランの直行便が成田の関空から運航。運航日は成田・ヌメア間往復ともに、月、火、水、木、土。関空・ヌメア間往復がともに月、木、土。所要時間は約8時間のフライト
- シーズンリティ：南半球に位置するため、日本とは、季節が逆。年間平均気温は約24度。夏の2月頃は、最高気温30度、最低気温22度。もっとも涼しいのは7月頃で、20度になる。平均水温は12~11月で27度。5~6月で25~6度。7~8月で22~3度。10~11月で23~24度。



また、この島に来たくなる。  
そんな素敵な場所だった

# シヨン